問いかけに応じようとする過程にこそ、成長がある

２年前に授業で出会いこの４月から現場に立つ元学生から、他傷行為（咬む等）のある子どもの係わり方について、アドバイスを求める初メール。

半期の週１回の非常勤で、多人数の授業だけに元学生の顔は当然浮かびませんが、アドレスを知らなかったので同窓生にわざわざ尋ねてのメールをもらうと、自分を思い出してくれたことはやはり嬉しい！

元学生からのこうしたメールは結構入るが、真剣に子どもに向かい合うが故に、悩みながらも歩んでくれている元学生たちの周りに相談するという行動に移す勇気は素晴らしいと思うし、先々プロとして頼もしい限り。

さて、自分なりに返信したが、いつものようにメル友へもアドバイスをお願いした。

早速、メル友から、あれこれアドバイスを寄越してくれるその気持ちが嬉しい！

世の中には、「相手の立場に立って、相手の気持ちを大事にすること」等々を口にするプロが多いが、見も知らない同じ道を歩む後輩にさえ、悩みに寄り添い相談事を真剣に受け止め、少しでも参考になればと直ぐに行動で応じようとする人は、そうはいない。

中には、「直接メール交流してもいいからアドレスを後輩に教えてもいいよ。」とさえ、申し出てくださるメル友もいた。

こうした互いに輔け合う気持ちのあるメル友たちの日常の人と係わり合う仕事の様子は、想像に余りある。

「その人の思想（考え）を知るには、その人の行動を観ることである。」という所以か。

また、こうしてみんなに意見を求めることで自分も更に勉強になるし、自分の問いかけにメル友も文章にすることで自身の想い、考えも確認できるし、自らの検証作業にもなるのでないだろうかとも思う。

言い換えれば、人は人の問いかけに応じる、人と係わり合う機会を自ら作る過程があってこそ、成長していくのでないだろうか。

そこには、専門性が異なるとか、立場とか、年齢とかは、あまり関係ないと思う。

今回、元学生から、また、先輩であるメル友から、そのことを改めて気づかされた。

阿部幸泰　　（2007 年 5 月 12 日　記）